



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

小学校英語教科書における英語の文字の出現頻度

メタデータ	<p>言語: Japanese</p> <p>出版者: 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科</p> <p>公開日: 2023-10-27</p> <p>キーワード (Ja): 英語科教育, 小学校, 英語の文字の頻度, 教科書, ETYP:教育関連論文, SSUB:英語</p> <p>キーワード (En): English education, elementary school, frequency of English letters, textbooks</p> <p>作成者: 小竹, 空翼, 伊東, 哲</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属: 東京学芸大学, 啓明学園初等学校, 東京学芸大学</p>
URL	<p>http://hdl.handle.net/2309/0002000058</p>

小学校英語教科書における英語の文字の出現頻度

小竹 空翼*・伊東 哲**

1. はじめに

小学校学習指導要領（文部科学省, 2017）では、高学年において教科として外国語科が導入され、本稿の執筆時点（2022年）で全面実施されて3年目を迎えている。外国語科においては、「読むこと」で「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」（p.157）こと、「書くこと」で「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする」（p.157）ことが、文字指導に関する目標として明記されている。また、教科化と併せて外国語活動の開始が前倒しされ、英語の文字に関する指導は3年生から行われることとなり、「文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする」（p.173）ことが目標として示されている。具体的には、中学年では文部科学省発行の外国語活動教材 *Let's Try! 1*（3年生用）でアルファベットの大文字、*Let's Try! 2*（4年生用）で小文字を学習し、高学年では教科化に伴って、初めて検定教科書を用いて「読むこと」や「書くこと」を学習することとなった。一方で、教師は児童の文字に対する様々なつまづきを認知しており（松宮他, 2021）、文字の学習経験がある5年生であっても小文字を中心に書字の習得率の低い文字があることが報告されている（桐井他, 2022）等、小学校における文字指導には課題があり、改善に資するための研究が必要である。

文字は書き言葉の構成要素であり、英語の読み書きを習得するためには文字に関する知識を習得すること

が必要不可欠である（Ehri & Roberts, 2006）。子どもの文字に関する知識の発達についての理論的理解を深め、実践に役立てようと、これまでに文字の習得にはどのような要因が影響しているかを明らかにするための様々な研究が行われてきた（Evans et al., 2006; McBride-Chang, 1999; Piasta & Wagner, 2010 等）。Piasta and Wagner (2010) は、文字の習得に影響する要因を、「子どもの特性 (child characteristics)」と「文字の特性 (letter properties)」の2つの側面に整理している。「子どもの特性」とは、音声言語能力や、記憶力、音韻処理能力等のことであり、「文字の特性」とは、アルファベットの順序や、文字の形態や表す音の性質、文字の出現頻度等のことである。文字の習得には数多くの要因が関わっており、その様相を明らかにするためには、複数の側面からの調査が必要であるが、日本国内では文字の出現頻度に着目した調査がなされていない現状を鑑み、本研究では文字の出現頻度に着目することとした。

文字の出現頻度が文字の名称の習得に影響することは、多くの研究結果から明らかになっている。Treiman et al. (2006) は英語を母語とするアメリカ人およびポルトガル語を母語とするブラジル人の未就学児を対象に、アルファベットの大文字を提示して文字の名称を答えさせるタスクを実施し、それぞれの母語における文字の出現頻度が、タスクにおいて解答として現れる文字の頻度に統計的に有意な影響を及ぼしていることを明らかにした。誤答としてA, B, Cが現れる傾向が強く

* こたけ あいき 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科・言語文化系教育講座、啓明学園初等学校

** いたう さとし 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科・言語文化系教育講座

キーワード：英語科教育／小学校／英語の文字の頻度／教科書

見られたが、これはA, B, Cはテキスト中での出現頻度以上に接触する機会が多い文字であるため、頻度の影響の一部であると考察している。また、一般的な頻度の影響 (general frequency effects) に加えて、子どもの名前に含まれている文字については正答率が有意に高く、個人的な頻度効果 (personal frequency effects) が見られたと述べている。日本国内で外国語として英語に触れている子どもを対象とした調査でも、頻度の影響が示唆されている。村石・天野 (1972) は幼児を対象とした研究で、当時流行していた『オバケのQ太郎』という漫画がQの正答率に影響し、小竹 (2022) は英語学習開始前の児童を対象とした研究で、『TT兄弟』というコントが流行していたため、Tの正答率に影響したとそれぞれ考察している。

文字の出現頻度は、文字の書きの習得にも影響を及ぼすことが示されてきた。Treiman et al. (2001) はアメリカ人の未就学児～2年生を対象に単語の綴りテストを実施し、子どもの解答において過度に使用されている文字には、名前に含まれる文字が多かったことを明らかにした。また、一般的な文字の出現頻度と、過度に使用されていた文字数の間に統計的に有意な相関が見られたと報告している。Pollo et al. (2009) は、ブラジル人の幼児に対してポルトガル語の綴りテストを、アメリカ人の幼児に対して英語の綴りテストをそれぞれ実施し、その結果産出された文字とそれぞれの言語における文字の出現頻度との間に統計的に有意な相関があることを明らかにしている。また、Puranik et al. (2013) は、アメリカ人の3～5歳児を対象に英語の文字の書字テストを実施し、各文字の項目困難度を算出し、出現頻度の高い文字は困難度が低く、出現頻度の低い文字は困難度が高い傾向が見られたと報告している。

文字の出現頻度を明らかにするための研究は、暗号解読や工学等の様々な分野で行われてきた (Lewand, 2000; Grigas & Juškevičienė, 2018等)。ただし、これらの研究においては大文字と小文字が区別されていないことに留意が必要である。大文字と小文字を区別したものは、Jones and Mewhort (2004) が大規模英語コーパスを用いて調査している。この調査では、*New York Times* の記事、百科事典の記事、ウェブ上のテキスト

など5つの大規模コーパスにおける文字の出現頻度を明らかにし、その間に相関があるかを検証した。コーパス間でのピアソンの積率相関係数の平均は、大文字では.9065、小文字では.9965を示し、いずれのコーパスにおいても文字の出現頻度は一貫していることが明らかになった。そのうち、*New York Times* コーパスを用いた分析では1992年の1月～3月にかけて*New York Times* に掲載された記事 (約1,400万語) における文字の出現回数を明らかにしている。最も頻度が高かった文字は大文字ではT、小文字ではe、最も頻度の低かった文字は大文字ではZ、小文字ではqであった。

英語圏においては文字の出現頻度に関する研究が盛んに行われている一方で、日本の児童を取り巻く英語の文字環境に関する調査は十分になされていない。文字の出現頻度が、文字の習得に影響を与えることが明らかである以上、子どもの文字への接触の様相を明らかにすることは急務である。子どもの文字への接触には、日常的な接触や、家庭での学習経験、正規の学校教育での指導等が複合的に関わっていると考えられるが、本研究では正規の学校教育、特に教科書を対象とすることにした (本研究においては、文部科学省発行の外国語活動教材、および検定教科書をあわせて「教科書」と呼称する)。全国の小学校に配布されている外国語活動教材や、全ての児童が使用することになっている検定教科書を対象に文字の出現頻度を調査することは、児童の文字の習得に影響する要因の一端を明らかにする上で重要である。一方で、小学校の英語教科書を対象として、文字に焦点を当てて行われた研究は筆者の知る限り見当たらない。そこで、本研究の目的は小学校英語教科書における文字の出現頻度を教科書別、文字別に分析し、小学校英語教育における児童の文字への接触の様相の一部を明らかにすることである。なお、文字の出現傾向をできる限り詳細に理解するため、指導内容に関する部分で現れる文字 (タイプ1) とその他の部分で現れる文字 (タイプ2) を区別して分析を行い、またローマ字の影響や一般的な文字の出現頻度との関係についても検討を行うこととした。研究課題として以下の4点を設定した。

RQ1 各教科書における総文字数とその内訳としての大文字、小文字、タイプ1、タイプ2の文

- 字数はどのようなものか。
- RQ2 各文字の出現頻度はどのようなものか。また、教科書間でその傾向は異なるか。
- RQ3 日本語のローマ字表記として出現する文字は、文字の出現頻度にどの程度影響しているか。
- RQ4 教科書における文字の出現頻度と一般的な文字の出現頻度に相関はあるか。

2. 方法

2.1. 対象の教科書

小学校3, 4年生用の外国語活動教材 *Let's Try!* 1, 2, および検定教科書 *NEW HORIZON Elementary English Course 5, 6* (以下 *NH*), *NH*に付属する *Picture Dictionary* (以下 *PD*), *Junior Sunshine 5, 6* (以下 *JS*), *JUNIOR TOTAL ENGLISH 1, 2* (以下 *JT*), *CROWN Jr. 5, 6* (以下 *CJ*), *ONE WORLD Smiles 5, 6* (以下 *OW*), *Here We Go! 5, 6* (以下 *HW*), *Blue Sky elementary 5, 6* (以下 *BS*) の計17冊を分析対象とした。*NH*のみ、本体と別冊の*PD*を合わせた3冊構成で、*PD*は5, 6年生で継続して使用することになっている。

2.2. 手続き

教科書に出現する英語の文字を表紙, 背表紙, 裏表紙等も含め, 全てExcelに手作業で入力した。データの inputs は, 研究者2名で分担して行った。ラテン文字の大文字と小文字を分析対象とし, その他の文字やアクセント記号が付加されている文字は分析に含まなかった。また, 小学生用の教材においてはイラストや写真が多用されており, それらも教材の重要な構成要素の一部と考えられるため, イラストや写真に含まれる文字も分析対象とした。ただし, 文字の大きさやデザイン等によって視認性に問題があるケースも散見されたので, 研究者2名で協議を行い, 無理なく判読できる

と判断した文字のみを分析に含めることにした。入力は単語単位で行い, 大文字と小文字は区別した。また, 後の分析において必要となる情報を以下のように整理した。

(1) **タイプ** 指導内容に関する部分で出現する文字と, その他の部分で出現する文字を区別するために, 単語をタイプ1と2に分類した。これはタイプ1と2では, 児童による認識のされ方が異なると考えられるためである。具体例として, *NH 5*を例にそれぞれのタイプに該当する項目を表1に示した。

(2) **ローマ字** 日本語のローマ字表記として出現する文字と英語として出現する文字を区別するために, 前者に「ローマ字」タグを付与した。なお, *judo*や*anime*のように英語化していると考えられる単語もあるが, 本研究においては日本語由来の単語には全て「ローマ字」タグを付与することにした。

(3) **単独文字の区別** 大文字のIが単独文字で出現するときには, 代名詞として現れる場合と, アルファベットの表や文字指導のページ等で単独文字として現れる場合があるので, 前者に「代名詞」タグを付与した。同様に, 大文字のAおよび小文字のaが単独文字で出現するときは, 不定冠詞として現れる場合と, アルファベットの表や文字指導のページ等で単独文字として現れる場合があるので, 前者に「不定冠詞」タグを付与した。他にも, ページ数を表すpとその他の単独文字pを区別するために, 前者に「ページ」のタグを, 選択肢のA, B, C等とその他の単独文字を区別するために, 前者に「選択肢」のタグを付与した。

入力したデータは, 英語教育を専攻する大学院生7名に依頼し, 入力誤りがないかの点検を行った。その後, 研究者2名で最終確認を行った上で, ピボットテーブルを用いて文字数を集計し, 分析を実施した。

表1 *NH5*におけるタイプ1および2に該当する項目の例

該当する項目の例	
タイプ1	単元名 (Hello, friends., When is your birthday? 等), 指導や活動の内容 (What color do you like?, I like blue. 等), イラスト中の文字 (Bakery, ZOO 等), 指導上の意図があると考えられる写真中の文字 (EXIT, OPEN 等)
タイプ2	書名, 出版社名 (NEW HORIZON Elementary, TOKYO SHOSEKI 等), 単元や活動の見出し (Unit, Starting Out, Let's Watch and Think 等), 選択肢やラベリング (A, B, C 等), ページ (p., pp. 等), 写真中の偶然写り込んだ文字, その他タイプ1にあてはまらないもの

2. 3. 分析

2. 3. 1. 各教科書における総文字数

全体の傾向を捉えるために、各教科書における総文字数と、その内訳としての大文字、小文字、タイプ1、タイプ2の文字数を集計した。

2. 3. 2. 各教科書における各文字の出現回数

以降の分析では、全ての教科書において2冊(NHにおいてはPDを含めた3冊)をまとめて集計した。各文字の出現傾向を明らかにするために、教科書別に大文字、小文字の出現回数と、各文字におけるタイプ別の文字数をそれぞれ集計した。文字の出現傾向が全体の傾向と異なる教科書があるかを明らかにするために、各教科書における各文字の出現回数の期待度数(全教科書における文字数の比率に基づいて算出した理論上の出現回数、例えばNHにおけるAの場合「NHにおける大文字の総数」×「全教科書におけるAの総数」÷「全教科書における大文字の総数」)を算出し、出現回数が期待度数の1.5倍以上の文字については、個別にその要因を考察した。1.5倍という基準は恣意的ではあるが、全体の傾向を踏まえて研究者が設定した。なお、LTは中学年用教材であり質的に異なるため、期待度数を用いた分析には含めなかった。

2. 3. 3. ローマ字の影響

日本語のローマ字表記においては、文字の出現傾向が英語として出現する文字とは異なる可能性がある。そこで、ローマ字が各文字の出現傾向に影響を与えているかを明らかにするために、教科書別に各文字の出現回数のうちローマ字が占める割合を算出した。なお、LTはローマ字がほぼ含まれていなかったため、この分析には含めなかった。

2. 3. 4. New York Times コーパスとの比較

教科書における文字の出現頻度が、一般的な文字の出現頻度と同様の傾向を示すのか、あるいは教科書特有の傾向を示すのかを明らかにするために、New York Times コーパス (Jones & Mewhort, 2004) における文字

の出現頻度と、各教科書における文字の出現頻度を用いて、SPSS (Ver. 27) を使用してスピアマンの順位相関係数¹を算出した。同コーパスは他の大規模コーパスとの相関が極めて高かったことから (Jones & Mewhort, 2004)、これにおける文字の出現頻度を一般的なテキストにおける出現頻度として扱うこととした。なお、入手可能な範囲において、大文字と小文字を区別した出現回数が全て記載されているものが同コーパスのみであったため、これを用いた。

3. 結果と考察

3. 1. 各教科書における総文字数

各教科書における総文字数と、その内訳としての大文字、小文字、タイプ1、タイプ2の文字数を表2に示した。

各教科書の総文字数を比較すると、教科書によってかなりばらつきがあることが明らかになった。LTは文字数が極端に少ないが、これはLTが中学年用教材であり、「読むこと」や「書くこと」が想定されていないためである。高学年用の教科書では、文字の出現回数が最も少ないCJで29,000文字、最も多いJTで59,185文字と、約2倍の差が見られた。大文字と小文字を比較すると、どの教科書においても小文字の方が多く見られたが、PDにおいては小文字の占める割合が特に高かった。これは、PDは教科書本体と独立して辞書としての機能を担うものであり、文単位よりも単語単位での記述が多いためであると考えられる。また、LTでは大文字の占める割合が高かったが、これは特にLTIでは文字指導が大文字にフォーカスしたものであるためであると考えられる。タイプ1と2の比較では、どの教科書においてもタイプ1の方が多く見られたが、LTにおいてはタイプ2の占める割合が高かった。これは、LTは中学年用教材であり、内容に関する部分で文字が出現する頻度が低かったためである。

小学校英語教科書における英語の文字の出現頻度

表2 各教科書における総文字数とその内訳

	大文字			小文字			総文字数		
	タイプ1	タイプ2	計	タイプ1	タイプ2	計	タイプ1	タイプ2	計
LT1	421	796	1,217	1,407	565	1,972	1,828	1,361	3,189
LT2	713	333	1,046	2,319	1,127	3,446	3,032	1,460	4,492
LT計	1,134	1,129	2,263	3,726	1,692	5,418	4,860	2,821	7,681
NH5	1,246	1,207	2,453	6,990	4,126	11,116	8,236	5,333	13,569
NH6	1,191	1,301	2,492	10,149	4,391	14,540	11,340	5,692	17,032
PD	693	295	988	12,983	704	13,687	13,676	999	14,675
NH計	3,130	2,803	5,933	30,122	9,221	39,343	33,252	12,024	45,276
JS5	1,191	1,943	3,134	11,192	3,837	15,029	12,383	5,780	18,163
JS6	1,188	1,428	2,616	15,787	4,711	20,498	16,975	6,139	23,114
JS計	2,379	3,371	5,750	26,979	8,548	35,527	29,358	11,919	41,277
JT1	2,211	2,401	4,612	18,164	6,543	24,707	20,375	8,944	29,319
JT2	2,356	1,975	4,331	20,503	5,032	25,535	22,859	7,007	29,866
JT計	4,567	4,376	8,943	38,667	11,575	50,242	43,234	15,951	59,185
CJ5	1,625	856	2,481	9,481	2,119	11,600	11,106	2,975	14,081
CJ6	1,402	861	2,263	10,560	2,096	12,656	11,962	2,957	14,919
CJ計	3,027	1,717	4,744	20,041	4,215	24,256	23,068	5,932	29,000
OW5	1,867	756	2,623	11,139	2,513	13,652	13,006	3,269	16,275
OW6	1,815	818	2,633	12,398	2,658	15,056	14,213	3,476	17,689
OW計	3,682	1,574	5,256	23,537	5,171	28,708	27,219	6,745	33,964
HW5	1,726	1,270	2,996	15,809	4,115	19,924	17,535	5,385	22,920
HW6	1,273	1,280	2,553	18,625	4,060	22,685	19,898	5,340	25,238
HW計	2,999	2,550	5,549	34,434	8,175	42,609	37,433	10,725	48,158
BS5	1,499	871	2,370	12,843	3,354	16,197	14,342	4,225	18,567
BS6	1,546	921	2,467	16,239	3,238	19,477	17,785	4,159	21,944
BS計	3,045	1,792	4,837	29,061	6,613	35,674	32,106	8,405	40,511
計	23,963	19,312	43,275	206,588	55,189	261,777	230,551	74,501	305,052

3. 2. 各教科書における各文字の出現回数

教科書別に大文字、小文字の出現回数をそれぞれ集計した(表3, 4)。

全教科書の合計においては、大文字はX(189)～L(5,505)の範囲、小文字はq(306)～e(31,477)の範囲であり、大文字のLはXの約29倍、小文字のeはqの約103倍の出現頻度で、かなり幅があることが明らかになった。また、大文字、小文字ともにどの教科書も概ね似た出現傾向を示しているが、文字によっては出現頻度が教科書間で大きく異なることが明らかになった。

各文字の出現回数について、上位3文字と下位3文字を整理したものを表5, 6に示した。

全教科書の合計において出現回数の多かった文字は、多い順に大文字ではL(5,505), S(3,374), I(2,999)、小文字ではe(31,477), a(23,945), t(23,189)であった。大文字でLやSの頻度が高かったのは、Let's, Lesson, Step, Sounds等のタイプ2として出現している単語が影響したと考えられる。ただし、大文字につ

いては教科書によって上位3文字にばらつきがあり、出現傾向が異なっていた。一方で、小文字は大文字と比較してばらつきが小さく、上位3文字に含まれている文字は教科書間で共通しているものが多かった。これは、大文字は出現箇所が文頭、固有名詞、文字指導に関する箇所等に限られていて、教科書よる差が出やすいことや、大文字においてタイプ2の占める割合が高く、単元や活動の見出し等において特定の文字が繰り返し現れること等の影響であると考えられる(各教科書で使用されている見出しの例は付録を参照)。

全教科書の合計において出現回数の少なかった文字は、少ない順に大文字でX(189), Z(270), V(314)、小文字でq(306), x(627), z(852)であった。下位3文字に含まれている文字は、大文字、小文字ともに教科書間で共通しているものが多かった。

続いて、タイプ1のみについて同様の集計を行った(表7, 8)。

表3 教科書別大文字の出現回数

	<i>LT</i>	<i>NH</i>	<i>JS</i>	<i>JT</i>	<i>CJ</i>	<i>OW</i>	<i>HW</i>	<i>BS</i>	計
A	284 97/187	223 161/62	339 125/214	535 225/310	276 201/75	391 249/142	290 166/124	322 211/111	2,660 1,435/1,225
B	40 38/2	140 98/42	80 61/19	379 152/227	154 91/63	188 151/37	153 103/50	159 95/64	1,293 789/504
C	51 36/15	256 109/147	155 78/77	689 166/523	218 118/100	152 113/39	209 120/89	211 114/97	1,941 854/1087
D	50 50/0	256 111/145	85 56/29	158 129/29	116 96/20	154 132/22	154 88/66	197 97/100	1,170 759/411
E	241 75/166	276 155/121	278 92/186	316 260/56	265 179/86	243 193/50	156 125/31	212 154/58	1,987 1,233/754
F	21 21/0	99 85/14	91 78/13	173 130/43	108 86/22	175 134/41	151 107/44	115 103/12	933 744/189
G	19 17/2	124 76/48	62 53/9	146 109/37	129 68/61	80 76/4	151 81/70	93 47/46	804 527/277
H	55 54/1	216 150/66	107 96/11	210 179/31	161 122/39	175 167/8	291 155/136	141 132/9	1,356 1,055/301
I	99 95/4	513 412/101	292 264/28	604 542/62	344 321/23	399 346/53	393 338/55	355 320/35	2,999 2,638/361
J	8 8/0	126 104/22	141 121/20	131 108/23	139 68/71	103 96/7	181 74/107	128 101/27	957 680/277
K	29 27/2	96 67/29	112 93/19	193 163/30	105 101/4	123 114/9	119 114/5	97 84/13	874 763/111
L	153 31/122	439 78/361	1,358 76/1,282	1,890 128/1,762	267 84/183	677 121/556	407 80/327	314 64/250	5,505 662/4,843
M	192 32/160	233 193/40	339 164/175	283 253/30	261 179/82	252 207/45	239 205/34	241 233/8	2,040 1,466/574
N	386 64/322	285 115/170	425 79/346	224 175/49	248 150/98	319 153/166	522 131/391	156 130/26	2,565 997/1,568
O	74 72/2	275 103/172	93 68/25	288 220/68	234 171/63	248 204/44	183 100/83	165 136/29	1,560 1,074/486
P	54 33/21	207 72/135	393 67/326	221 161/60	328 95/233	123 96/27	102 80/22	196 73/123	1,624 677/947
Q	5 5/0	54 18/36	136 25/111	35 31/4	20 20/0	26 25/1	29 15/14	31 18/13	336 157/179
R	50 50/0	140 67/73	245 76/169	196 158/38	176 128/48	184 123/61	158 78/80	189 131/58	1,338 811/527
S	87 79/8	567 223/344	244 164/80	967 322/645	341 188/153	379 288/91	516 264/252	273 233/40	3,374 1,761/1,613
T	115 83/32	427 196/231	277 174/103	520 336/184	365 211/154	332 251/81	320 189/131	213 203/10	2,569 1,643/926
U	93 37/56	291 50/241	71 52/19	154 79/75	134 72/62	93 78/15	398 58/340	616 71/545	1,850 497/1,353
V	11 9/2	43 38/5	49 42/7	45 42/3	30 28/2	51 51/0	37 28/9	48 33/15	314 271/43
W	67 42/25	393 277/116	237 168/69	374 297/77	183 111/72	228 161/67	206 156/50	239 138/101	1,927 1,350/577
X	11 11/0	24 17/7	28 18/10	38 35/3	20 19/1	29 27/2	22 17/5	17 17/0	189 161/28
Y	57 57/0	176 119/57	83 65/18	128 123/5	99 97/2	89 83/6	137 103/34	71 70/1	840 717/123
Z	11 11/0	54 36/18	30 24/6	46 44/2	23 23/0	43 43/0	25 24/1	38 37/1	270 242/28

注. 上段はタイプ1と2の両方を含めた度数, 下段左はタイプ1の度数, 下段右はタイプ2の度数。

小学校英語教科書における英語の文字の出現頻度

表4 教科書別小文字の出現回数

	<i>LT</i>	<i>NH</i>	<i>JS</i>	<i>JT</i>	<i>CJ</i>	<i>OW</i>	<i>HW</i>	<i>BS</i>	計
a	569 317/252	3,478 2,798/680	2,985 2,336/649	4,230 3,641/589	2,495 1,967/528	2,850 2,489/361	3,859 3,147/712	3,479 2,732/747	23,945 19,427/4,518
b	72 69/3	549 542/7	502 457/45	826 774/52	494 422/72	492 477/15	711 653/58	522 513/9	4,168 3,907/261
c	191 143/48	1,245 973/272	976 814/162	1,613 1,285/328	838 758/80	971 845/126	1,167 1,039/128	1,056 981/75	8,057 6,838/1,219
d	127 102/25	1,137 840/297	962 820/142	1,361 1,108/253	672 499/173	786 669/117	1,313 1,147/166	1,217 976/241	7,575 6,161/1,414
e	746 464/282	4,343 3,315/1,028	4,802 3,173/1,629	6,459 4,289/2,170	2,659 2,215/444	3,208 2,346/862	5,265 3,976/1,289	3,995 3,303/692	31,477 23,081/8,396
f	50 50/0	466 464/2	582 575/7	612 550/62	289 281/8	340 338/2	575 567/8	547 545/2	3,461 3,370/91
g	100 91/9	710 627/83	643 586/57	1,049 894/155	567 482/85	561 513/48	787 764/23	770 712/58	5,187 4,669/518
h	213 148/65	1,458 1,287/171	1,321 1,173/148	2,341 1,827/514	1,073 946/127	1,087 971/116	1,655 1,503/152	1,309 1,238/71	10,457 9,093/1,364
i	357 200/157	2,946 2,094/852	2,107 1,818/289	3,093 2,554/539	1,583 1,334/249	1,955 1,619/336	2,901 2,272/629	2,823 1,926/897	17,765 13,817/3,948
j	9 9/0	153 119/34	206 112/25	185 160/36	134 98/36	149 143/6	130 127/3	101 100/1	1,067 868/199
k	88 62/26	657 480/177	459 405/54	986 803/183	508 390/118	525 459/66	611 576/35	616 533/83	4,450 3,708/742
l	201 177/24	1,826 1,506/320	1,236 1,009/227	1,974 1,704/270	1,034 839/195	1,167 1,072/105	1,747 1,520/227	1,038 972/395	10,223 8,799/1,424
m	315 151/164	1,142 873/269	834 661/173	1,337 1,170/167	620 515/105	928 775/153	1,504 968/536	1,312 917/395	7,992 6,030/1,962
n	369 215/154	2,782 1,874/908	2,781 1,845/936	3,786 2,568/1,218	1,649 1,264/385	1,955 1,445/510	3,040 2,376/664	3,365 2,062/1,303	19,727 13,649/6,078
o	355 353/2	2,886 2,318/568	2,699 2,039/660	3,617 2,945/672	1,964 1,589/375	2,248 1,836/412	3,037 2,642/395	2,329 2,088/241	19,135 15,810/3,325
p	131 111/20	1,175 648/527	634 629/5	1,156 941/215	593 512/81	673 600/73	1,275 699/576	723 707/16	6,360 4,847/1,513
q	7 7/0	32 31/1	24 24/0	92 87/5	34 32/2	32 32/0	39 37/2	46 42/4	306 292/14
r	264 257/7	2,520 1,884/636	1,797 1,605/192	2,711 2,200/511	1,527 1,273/254	1,513 1,393/120	2,428 2,145/283	2,054 1,832/222	14,814 12,589/2,225
s	364 244/120	2,442 1,931/511	3,372 1,555/1,817	3,891 2,285/1,606	1,610 1,212/398	2,344 1,439/905	2,486 1,955/531	1,885 1,650/235	18,394 12,271/6,123
t	476 216/260	3,435 2,272/1,163	3,307 2,348/959	4,725 3,083/1,642	1,803 1,433/370	2,237 1,662/575	3,896 2,700/1,196	3,310 2,318/992	23,189 6,032/7,157
u	131 130/1	1,546 1,187/359	1,004 982/22	1,557 1,316/241	750 728/22	968 940/28	1,518 1,282/236	1,067 1,011/56	8,541 7,576/965
v	42 19/23	265 226/39	326 324/2	344 329/15	164 157/7	304 211/93	384 358/26	337 294/43	2,166 1,918/248
w	62 61/1	529 496/33	483 479/4	706 685/21	273 265/8	353 331/22	699 582/117	495 474/21	3,600 3,373/248
x	5 5/0	58 55/3	130 125/5	121 118/3	64 64/0	42 42/0	101 95/6	106 103/3	627 607/20
y	169 120/49	1,437 1,202/235	1,256 986/270	1,308 1,198/110	762 669/93	886 757/129	1,354 1,192/162	1,070 951/119	8,242 7,075/1,167
z	5 5/0	126 80/46	99 99/0	162 153/9	97 97/0	134 133/1	127 112/15	102 102/0	852 781/71

注. 上段はタイプ1と2の両方を含めた度数, 下段左はタイプ1の度数, 下段右はタイプ2の度数。

表5 大文字の出現回数上位および下位3文字(タイプ1&2)

順位	LT	NH	JS	JT	CJ	OW	HW	BS	計
1	N (386)	S (567)	L (1,358)	L (1,890)	T (365)	L (677)	N (522)	U (616)	L (5,505)
2	A (284)	I (513)	N (425)	S (967)	I (344)	I (399)	S (516)	I (355)	S (3,374)
3	E (241)	L (439)	P (393)	C (689)	S (341)	A (391)	L (407)	A (322)	I (2,999)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
24	Z (11)	Q (54)	V (49)	V (45)	Z (23)	Z (43)	Q (29)	Z (38)	V (314)
25	J (8)	V (43)	Z (30)	X (38)	X (20)	X (29)	Z (25)	Q (31)	Z (270)
26	Q (5)	X (24)	X (28)	Q (35)	Q (20)	Q (26)	X (22)	X (17)	X (189)

注. 括弧内は度数。

表6 小文字の出現回数上位および下位3文字(タイプ1&2)

順位	LT	NH	JS	JT	CJ	OW	HW	BS	計
1	e (746)	e (4,343)	e (4,802)	e (6,459)	e (2,659)	e (3,208)	e (5,265)	e (3,995)	e (31,477)
2	a (569)	a (3,478)	s (3,372)	t (4,725)	a (2,495)	a (2,850)	a (3,896)	a (3,479)	a (23,945)
3	t (476)	t (3,435)	t (3,307)	a (4,230)	o (1,964)	s (2,344)	t (3,859)	n (3,365)	t (23,189)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
24	q (7)	z (126)	x (130)	z (162)	z (97)	z (134)	z (127)	z (102)	z (852)
25	z (5)	x (58)	z (99)	x (121)	x (64)	x (42)	x (101)	j (101)	x (627)
26	x (5)	q (32)	q (24)	q (92)	q (34)	q (32)	q (39)	q (46)	q (306)

注. 括弧内は度数。

表7 大文字の出現回数上位および下位3文字(タイプ1のみ)

順位	LT	NH	JS	JT	CJ	OW	HW	BS	計
1	A (97)	I (412)	I (264)	I (542)	I (321)	I (346)	I (338)	I (320)	I (2,638)
2	I (95)	W (277)	T (174)	T (336)	T (211)	S (288)	S (264)	S (233)	S (1,761)
3	T (83)	S (223)	W (168)	S (322)	A (201)	T (251)	M (205)	M (233)	T (1,643)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
24	V (9)	Z (36)	Q (25)	V (42)	Z (23)	Z (43)	Z (24)	V (33)	Z (242)
25	J (8)	Q (18)	Z (24)	X (35)	Q (20)	X (27)	X (17)	Q (18)	X (161)
26	Q (5)	X (17)	X (18)	Q (31)	X (19)	Q (25)	Q (15)	X (17)	Q (157)

注. 括弧内は度数。

表8 小文字の出現回数上位および下位3文字(タイプ1のみ)

順位	LT	NH	JS	JT	CJ	OW	HW	BS	計
1	e (464)	e (3,315)	e (3,173)	e (4,289)	e (2,215)	a (2,489)	e (3,976)	e (3,303)	e (23,081)
2	a (353)	a (2,798)	a (2,348)	a (3,641)	a (1,967)	e (2,346)	a (3,147)	a (2,732)	a (19,427)
3	o (317)	o (2,318)	t (2,336)	t (3,083)	t (1,589)	o (1,836)	t (2,700)	t (2,318)	t (16,032)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
24	q (7)	z (80)	j (112)	z (153)	z (97)	z (133)	z (112)	z (102)	z (781)
25	x (5)	x (55)	z (99)	x (118)	x (64)	x (42)	x (95)	j (100)	x (607)
26	z (5)	q (31)	q (24)	q (87)	q (32)	q (32)	q (37)	q (42)	q (292)

注. 括弧内は度数。

小学校英語教科書における英語の文字の出現頻度

タイプ1に限った場合に、全教科書の合計において出現回数が多かった文字は、多い順に大文字ではI (2,638), S (1,761), T (1,643)であった。なお、Iの出現回数のうち947回は代名詞であった。大文字の出現回数の上位3文字は教科書間で共通しているものが多かった。小文字については、タイプ1に限った場合でも結果は変わらず、多い順にe (23,081), a (19,427), t (16,302)であった。

タイプ1に限った場合に全教科書の合計において出現回数が少なかった文字は、少ない順に大文字ではQ (157), X (161), Z (242)であった。タイプ1と2を合わせた場合には、Qの出現回数は26文字中23位であったが、タイプ1に限定すると最下位となった。これは、大文字のQがJSにおいてQRコードを参照するための指示(タイプ2)として105回出現していたためである。小文字については、タイプ1に限った場合でも結果は変わらず、少ない順にq (292), x (607), z (781)であった。大文字ではタイプ2を除外するか否かによって出現傾向が異なることから、児童がタイプ2の文字をどのように認識しているかによって各文字への接触の様相が異なると考えられる。

続いて、LTを除いた各教科書について、各文字の出

現回数の期待度数を算出し、出現回数が期待度数の1.5倍以上の文字があるかどうかを調査した。大文字はC, D, H, L, N, P, Q, U, Yの9文字が該当した(表9)。

各文字について詳細に分析すると、どの文字についても出現回数に大きな影響を与えているのはタイプ2として出現する文字であった。大文字における出現回数は、教科書が使用している単元や活動の名称や指示等によって大きく変わることが明らかになった。

小文字については、qとxにおいて出現回数が期待度数の1.5倍以上の教科書が見られた。期待度数に基づく分析では、小文字は概ねどの教科書においても同様の出現傾向が示された。各文字について詳細に分析すると、qはJTにおいて期待度数の約1.5倍見られたが、92回中60回は単独文字のq(タイプ1)であった。これは、JTでは「Alphabet Corner」等で文字指導のために単独で文字を提示することが多かったためである。

xはJSにおいて期待度数の約1.5倍見られたが、130回中45回は教科書のページ番号によるものであった。これは、JSでは各ページにページ番号の綴りが記載されていて、「6」が含まれるページには必ずxが出現するためであった。

表9 出現回数が期待度数の1.5倍を上回った大文字

教科書	倍率	出現回数に大きく影響していた単語	タイプ2が出現回数に占める割合 (タイプ2/タイプ1&2)
C	JT 約1.7倍	Chant (242), Check (90)	75.9% (523/689)
D	NH 約1.6倍	Dictionary (95)	56.6% (145/256)
H	HW 約1.7倍	Hop (92)	46.7% (136/291)
L	JS 約1.8倍	Let's (592), Lesson (532), Listen (139)	94.4% (1,282/1,358)
	JT 約1.6倍	Let's (494), Lessonの略としての「L」(646), Listen (252)	93.2% (1,762/1,890)
N	HW 約1.8倍	Name (322), CAN-DO (44)	74.9% (391/522)
P	CJ 約1.8倍	JUMP (57), Part (44), HOP (34)	71.0% (233/328)
	JS 約1.8倍	Play (220), Project (92)	83.0% (326/393)
Q	JS 約2.9倍	QR (105)	81.6% (111/136)
U	BS 約3.0倍	Unit (536)	88.5% (545/616)
	HW 約1.7倍	Unit (311)	77.3% (340/398)
Y	NH 約1.6倍	Your (39)	32.4% (57/176)

注. 括弧内は度数。

3.3. ローマ字の影響

LTを除いた教科書別に各文字の出現回数に対するローマ字として用いられている文字の割合を算出した(表10)。

ローマ字が占める割合は大文字の総計においては全体の5.4%、小文字の総計においては5.1%で、それほど高い割合ではなかった。ただし、文字別に見ると大文字では、K(41.2%)、Y(15.3%)、H(13.7%)が高い割合を示しており、特にKにおいてはBS、JT、OW、HWは50%前後の割合を示していた。また小文字ではz(27.5%)、k(18.8%)、j(16.6%)が高い割合を示しており、特にzにおいてはOW、CJ、HW、JSは30%を超える割合であった。出版社別に見ると、ローマ字が占める割合は大文字においては3.7%~7.5%であり、BS(7.5%)とOW(7.2%)が比較的高い割合を示した。小文字においては2.7%~9.4%で、OW(9.4%)が高

い割合を示した。BSの大文字においてローマ字の占める割合が高かったのは、登場人物名としてローマ字が多く出現していて、その語頭において大文字が用いられることによるものであった。OWで大文字・小文字ともにローマ字の占める割合が高かったのは、OW5において日本の「名所・名物マップ」が掲載されており、ローマ字表記が大量に含まれていたことによるものであった。

全教科書の総計においてはローマ字の占める割合は高くはないものの、特定の文字や教科書において割合が比較的高いケースが見られ、文字の出現傾向に影響を及ぼしている可能性が示唆された。特に、Kやzは出現回数の多くがローマ字によるものであり、文字への接触量という観点から考えると、英語教科書においてローマ字を扱うことには一定の意義があると考えられる。

表10 各文字におけるローマ字の割合 (%)

	大文字								小文字							
	NH	JS	JT	CJ	OW	HW	BS	計	NH	JS	JT	CJ	OW	HW	BS	計
A/a	3.6	5.0	5.8	6.5	10.0	4.8	11.2	6.9	5.2	5.7	10.6	9.1	16.4	8.4	11.0	9.4
B/b	1.4	5.0	0.3	1.3	3.2	2.0	1.9	1.7	3.1	4.6	3.6	7.5	7.7	4.8	5.7	5.1
C/c	0.8	0.6	2.9	0	3.3	2.9	0.5	1.9	0.7	1.5	1.7	1.8	2.7	1.8	0.8	1.6
D/d	0	11.8	3.8	7.8	2.6	0	1.0	2.8	1.6	2.2	4.1	3.3	5.6	3.4	1.4	3.0
E/e	2.9	0.4	2.8	3.8	1.2	2.6	5.2	2.6	0.7	1.1	2.0	2.7	3.4	1.8	1.2	1.7
F/f	1.0	2.2	3.5	0	5.7	2.0	3.5	2.9	0.2	0.5	0.8	1.0	2.1	0.5	0.4	0.7
G/g	0.8	0	7.5	1.6	6.3	0.7	1.1	2.7	2.7	3.3	3.4	5.6	12.8	6.0	5.8	5.3
H/h	13.9	9.3	11.9	6.8	16.0	7.9	31.9	13.2	3.8	4.8	6.3	6.1	13.4	6.2	4.2	6.2
I/i	3.9	5.1	3.6	3.2	5.8	3.6	4.2	4.1	3.9	7.2	10.2	7.6	15.1	7.2	6.8	8.0
J/j	0.8	2.8	14.5	3.6	1.9	0.6	0	3.4	7.2	7.3	16.2	20.9	32.2	19.2	18.8	16.6
K/k	33.3	35.7	48.2	18.1	46.3	46.2	53.6	41.2	10.8	18.1	18.1	13.2	30.5	20.9	21.6	18.8
M/m	4.3	10.0	10.2	3.4	6.7	9.6	15.8	8.7	3.4	5.3	7.3	11.3	13.7	5.7	6.7	7.2
N/n	3.5	0.9	11.2	8.1	8.8	4.2	14.1	6.0	1.5	2.4	4.0	3.9	7.0	3.4	2.8	3.4
O/o	12.0	20.4	10.8	3.8	10.1	8.7	5.5	9.6	4.4	5.0	7.6	9.1	12.4	7.3	8.8	7.6
P/p	0	0	0.5	0	6.5	1.0	2.0	0.9	0.9	3.3	1.9	4.7	4.8	1.9	3.6	2.65
R/r	2.1	5.3	19.9	4.5	1.1	4.4	18.5	8.3	1.8	2.3	2.7	3.5	5.5	2.6	3.0	2.9
S/s	8.1	3.7	7.7	9.7	13.7	8.7	11.4	8.8	2.4	2.1	3.1	4.2	5.2	3.8	3.0	3.3
T/t	5.2	2.5	6.7	2.7	8.7	10.9	18.3	7.2	1.2	1.4	2.5	3.3	4.2	2.0	1.3	2.1
U/u	1.7	15.5	2.6	0	15.1	3.5	0.5	2.9	4.7	11.3	12.5	19.3	20.7	12.3	14.3	12.6
W/w	0	0.4	2.9	2.2	0.4	0	0.8	1.0	1.9	1.9	1.7	3.3	8.8	1.0	1.2	2.4
Y/y	9.7	14.5	18.8	11.1	24.7	16.8	15.5	15.3	4.0	7.2	8.6	16.7	15.6	7.2	9.2	9.0
Z/z	0	3.3	2.2	0	2.3	4.0	0	1.5	9.5	31.3	26.5	32.0	36.6	31.5	26.5	27.5
計	4.2	3.7	5.8	4.0	7.2	5.6	7.5	5.4	2.7	3.6	5.2	6.3	9.4	4.8	5.0	5.1

3. 4. *New York Times* コーパスとの比較

*New York Times*における文字の出現回数と、本調査で明らかになった教科書別の大文字および小文字の出現回数について、スピアマンの順位相関係数を算出した(表11)。

相関係数は大文字では.668～.853, 小文字では.938～.969の範囲であった。タイプ1に限定したところ、大文字で.695～.846, 小文字で.939～.977の範囲でほぼ同様の結果であり、タイプ2が文字の出現回数の順位に与える影響は小さかった。小文字については全ての教科書との間で極めて強い相関が見られ、大文字は小文字と比較するとやや弱い、中程度から強い相関

が見られた。一般的な文字の出現傾向と小学校英語教科書における文字の出現傾向は、小文字においてはほぼ一致し、大文字においてもある程度一致しているということが明らかになった。すなわち、教科書において出現頻度が高い文字は、一般的な接触においても頻度が高い場合が多く、教科書において出現頻度が低い文字は、一般的な接触においても頻度が低い場合が多いと考えられる。なお、大文字において相関がやや弱かったのは、一般的なテキストにおいては多様な語が文頭に現れるのに対し、小学生向け教材では代名詞のIから始まる文が多い等、文頭に現れる語が限定的であるためであると考えられる。

表11 *New York Times* コーパスと各教科書における文字の出現回数の相関係数

	<i>LT</i>	<i>NH</i>	<i>JS</i>	<i>JT</i>	<i>CJ</i>	<i>OW</i>	<i>HW</i>	<i>BS</i>
大文字(タイプ1&2)	.698	.674	.689	.816	.853	.798	.668	.697
大文字(タイプ1)	.745	.760	.695	.814	.846	.815	.794	.814
小文字(タイプ1&2)	.938	.947	.956	.969	.962	.956	.960	.950
小文字(タイプ1)	.939	.952	.975	.962	.959	.965	.962	.977

4. 結論

本研究では、小学校英語教科書に現れる文字の頻度について、(a) 各教科書における総文字数とその内訳としての大文字、小文字、タイプ1、タイプ2の文字数を集計し、(b) 各教科書における各文字の出現傾向を捉え、(c) ローマ字の占める割合をもとにローマ字が出現傾向に及ぼす影響を考察し、(d) 文字の一般的な出現頻度と比較をすることを通して、その様相を詳細に明らかにしてきた。

本研究における教育的示唆として、先行研究で文字の出現頻度が習得に影響することが示されていることから、使用している教科書において頻度の低い文字(例えば大文字ではX, Z, Vや小文字ではq, x, zなど)に対する重点的な手当てが有効と考えられる。英語の文字には大文字、小文字それぞれ26文字しかないものの、中には教科書中での出現頻度が極端に低い文字があることが明らかになった。加えて、一般的な文字の出現傾向との相関が高かったことから、教科書

外においてもこれらの文字への接触頻度は低くなると考えられる。これらの文字に対しては、個別に重点的に指導をする等、児童が接触する機会を担保することが重要である。また、出現回数のうちローマ字の占める割合が比較的高い文字が見られたことから、必要に応じてローマ字を扱うことは接触を確保する手立ての一つとなりうるであろう。本研究の結果を参考として、指導者が使用している教材・教科書に不足している点を認識することは、文字指導の計画、実施の上で一助となるであろう。

最後に本研究の限界と今後の課題を述べる。第一に、教科書内に現れる文字は、文字のサイズや紙面上のレイアウト、デザイン、単語内における位置等によって、接触の影響度が異なると考えられるため、これらの点を考慮した調査も必要であろう。また、本研究におけるタイプ1および2のような文字がそれぞれ児童によってどのように認識されるかについても今後の検討事項である。第二に、教科書に現れる文字の頻度と、

英語の文字を認識する能力や書字技能の習得との間には、どのような関係があるかを今後明らかにする必要がある。第三に、教科書の特性に応じた具体的な支援の手立てを検討することが求められる。第四に、本研究は児童の文字への接触機会の一端を明らかにしたに過ぎない。児童は学校内外において、板書、ワークシート、視聴覚教材、標識、看板等の様々な場面において文字に接触しているため、複数の側面からの調査が待たれる。

注

1. 分布に正規性が認められなかったため順位相関係数を用いた。

引用文献

- Ehri, L. C., & Roberts, T. (2006). The roots of learning to read and write: Acquisition of letters and phonemic awareness. In Dickinson, D. K., & Neuman, S. B. (Eds.), *Handbook of early literacy research* (Vol. 2; pp. 113-131). Guilford Press.
- Evans, M. A., Bell, M., Shaw, D., Moretti, S., Page, J. (2006). Letter names, letter sounds, and phonological awareness: An examination of kindergarten children across letters and of letters across children. *Reading and Writing: An Interdisciplinary Journal*, 19, 959-989.
- Grigas, G., & Juškevičienė, A. (2018). Letter frequency analysis of languages using latin alphabet. *International Linguistics Research*, 1(1), 18-31.
- Jones, M. N., & Mewhort, D. J. K. (2004). Case-sensitive letter and bigram frequency counts from large-scale English corpora. *Behavior Research Methods, Instruments, & Computers*, 36, 388-396.
- 桐井誠・伊東哲・酒井英樹 (2022). 「児童の誤りに基づく英語の手書き文字の指導」『関東甲信越英語教育学会誌』 36, 155-168.

- 小竹空翼 (2022). 「小学校における英語学習開始時に児童が有する英語の文字の知識—私立小学校1年生を対象とした実態調査—」『小学校英語教育学会誌』 22, 150-165.
- Lewand, R. E. (2000). *Cryptological mathematics*. American Mathematical Society.
- 松宮奈賀子・大谷みどり・中山晃・川合紀宗 (2021). 「小学校外国語科における6年生児童のつまずきの実態—学級担任及び専科教員を対象とした調査結果の分析—」『小学校英語教育学会誌』 21, 95-110.
- McBride-Chang, C. (1999). The ABCs of the ABCs: The development of letter-name and letter-sound knowledge. *Merrill-Palmer Quarterly*, 45, 285-308.
- 文部科学省 (2017). 『小学校学習指導要領』 東洋館出版社.
- 村石昭三・天野清 (1972). 『幼児の読み書き能力』 東京書籍.
- Piasta, S. B., & Wagner, R. K. (2010). Learning letter names and sounds. *Journal of Experimental Child Psychology*, 105, 324-344.
- Pollo, T., Kessler, B., Treiman, R. (2009). Statistical patterns in children's early writing. *Journal of Experimental Child Psychology*, 104, 410-426.
- Puranik, C., Petscher, Y., Lonigan, C. J. (2013). Dimensionality and reliability of letter writing in 3- to 5-year-old preschool children. *Learning and Individual Differences*, 28, 133-141.
- Trieman, R., Kessler, B., & Bourassa, D. (2001). Children's own names influence their spelling. *Applied Psycholinguistics*, 22, 555-570.
- Treiman, R., Kessler, B., & Pollo, T. C. (2006). Learning about the letter name subset of the vocabulary: Evidence from U.S. and Brazilian preschoolers. *Applied Psycholinguistics*, 27, 211-277.

付録

各教科書に使用されている単元や活動の見出しの例

単元や活動の見出しの例	
<i>LT</i>	Unit, Let's Listen, Let's Watch and Think, Let's Play, Let's Chant, Let's Sing, Activity 等
<i>NH</i>	Unit, Starting Out, Your Turn, Enjoy Communication, Over the Horizon, Check Your Steps, Picture Dictionary, Our Goal, Let's Sing, Let's Chant, Let's Listen, Let's Watch and Think, Let's Try, Small Talk 等
<i>JS</i>	Lesson, Project, Let's Listen, Let's Sing, Let's Chant, Let's Watch and Think, Let's Play, Let's Try, Let's Read and Write, Let's Read and Think, QR 等
<i>JT</i>	Lesson, L (Lesson の略), A, B, C (Lesson のパートを表す), Let's Listen, Let's Chant, Use & Check, Shaggy's Story, Check Time, Alphabet Corner, Sounds & Letters, Column, Project Time 等
<i>CJ</i>	Lesson, HOP, STEP, JUMP, Get Ready, Presentation, Try, CAN-DO, Panorama, Listen & Talk, Sound Chant, Word Chant, Talk to Friends, Write & Talk, Story, Enjoy Reading, Enjoy Listening 等
<i>OW</i>	Lesson, Let's Watch, Let's Say It Together, Let's Sing, Let's Listen, Let's Think, Activity, Let's Read and Write 等
<i>HW</i>	Unit, Review, Alphabet Time, Fun Time, Hop, Step, Jump, Goal, Story, Let's play., Let's watch., Let's listen., Let's chant., Let's try., Let's write., Let's listen and read., World Tour, You can do it!, Think, Response 等
<i>BS</i>	Unit, GOAL, Part, Jingle, Chant, Activity, Looking Back, Did you know?, Let's Read and Write, REVIEW, Story, Listen and Do, Think and Say, Read and Write, Listen and Guess, Listen and Play, Listen and Say, Look and Say 等